

ISOM'22 報告



ISOM'22 会場となった 札幌コンベンションセンター

ISOM は、1985 年にスタートした SOM (Symposium on Optical Memory) を母体に 1987 年から継続的に開催されている国際学会であり、今年 (2022 年) は 7 月 31 日 (日) ~ 8 月 3 日 (水) の会期で、札幌市の札幌コンベンションセンターにおいて、The 15th Pacific Rim Conference on Lasers and Electro-Optics (CLEO-PR2022)、The 13th international Conference on Optics-photonics Design and Fabrication (ODF'22) と併催で、ISOM'22 (International Symposium on Imaging, Sensing, and Optical Memory 2022) がハイブリッド形式で開催された。当協会は ISOM スタート時からのスポンサーであり、今年も共催団体として小谷副理事長以下関係者が出席した。

ISOM における研究発表分野は、従来の光メモリ技術からイメージング、センシングを含む幅広い領域に拡張され、各分野の研究者から最新の研究成果が紹介された。

今回の ISOM'22 の参加者数は 86 名であり、開催国の日本と、中国、台湾、香港、韓国、シンガポール、ヨーロッパからの参加があった。

ISOM'22 国別参加者数

日本	中国	台湾	香港	韓国	シンガポール	ヨーロッパ	その他	合計
70	7	3	2	1	1	1	1	86

応募論文数は 42 件で、日本、中国、台湾、香港、韓国から応募があった。招待講演、ポストデッドラインペーパーを含めた 65 件について、Poster Session、Post Deadline を含む 14 のセッションが行われ、活発な討議が繰り広げられた。Best Paper Award は、Institute for Basic Science の Yongwoo Kwon による “Time-Lapse Imaging of Mouse Brain through Intact Skull Using a Label-Free Computational Conjugate Adaptive Optical Microscopy” と題する講演が受賞した。

Keynote として奈良先端科学技術大学院大学の太田 淳 教授による “Control and Measurement of Biological Functions by Light with Optoelectronic Devices” と題する講演と、毎年恒例となっている特別招待講演として Stuttgart 大学の Wolfgang Osten 教授による “Exploitation of the whole Information

Content of the Light Field for the Inspection of Micro- and Nano-Components: Approaches & Limitations”と題する講演がそれぞれ行われた。

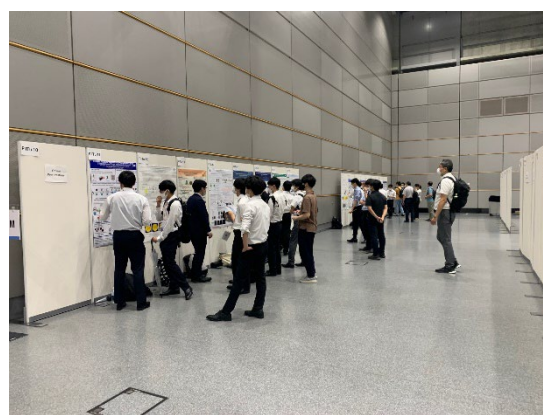
ISOM'22 国別応募論文件数

日本	中国	台湾	韓国	合計
33	4	4	1	42

今後も ISOM は、光メモリ技術をコアとしながらも関連する幅広い技術領域における最新の研究成果発表、技術交流の場として、技術・研究の発展に貢献していくことが期待されている。次回の ISOM'23 (https://isom.jp/PDF/ISOM23_First%20Call%20for%20Papers.pdf) は、高松市の高松シンボルタワーにおいて 2023 年 11 月 19 日（日）～11 月 22 日（水）の会期で開催される予定である。



Oral Session



Poster Session



ISOM'22 参加者集合写真